

# 令和2年度 東京都内湾水生生物調査 11月成魚調査速報

## ●実施状況

令和2年11月18日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が12時46分、満潮が17時56分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は0.5~6.2mであり、St.10では赤潮が確認されたため、透明度が低かった。また、全地点で下層の貧酸素状態は解消されていた(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報においても貧酸素状態は確認されていない)。

|                  | St.35      |      | St.25       |      | St.22       |      | St.10       |      |
|------------------|------------|------|-------------|------|-------------|------|-------------|------|
| 作業時刻             | 9:38-10:33 |      | 10:55-11:32 |      | 12:02-12:45 |      | 12:52-13:30 |      |
| 水深(m)            | 26.6       |      | 12.3        |      | 13.9        |      | 7.6         |      |
| 天候               | 晴          |      | 晴           |      | 晴           |      | 晴           |      |
| 気温(℃)            | 16.4       |      | 17.8        |      | 19.6        |      | 20.8        |      |
| 風向/<br>風速(m/sec) | ENE/2.3    |      | ENE/3.8     |      | ENE/2.8     |      | SE/2.5      |      |
| 波浪(m)            | 0.2        |      | 0.2         |      | 0.2         |      | 0.2         |      |
| 透明度(m)           | 6.2        |      | 2.8         |      | 1.8         |      | 0.5         |      |
| 観測層              | 上層         | 下層   | 上層          | 下層   | 上層          | 下層   | 上層          | 下層   |
| 水温(℃)            | 17.6       | 18.9 | 17.7        | 18.4 | 18.5        | 18.1 | 19.4        | 18.0 |
| 塩分(ー)            | 31.9       | 33.9 | 27.9        | 32.7 | 31.4        | 32.4 | 31.6        | 32.1 |
| DO(mg/L)         | 8.4        | 4.7  | 8.3         | 6.1  | 13.0        | 6.7  | 26.6        | 6.5  |
| DO飽和度(%)         | 106.9      | 62.1 | 102.9       | 78.5 | 167.4       | 86.4 | 349.3       | 83.5 |
| pH(ー)            | 8.1        | 8.0  | 8.0         | 8.0  | 8.3         | 8.1  | 7.8         | 8.0  |
| 水の臭気             | なし         | なし   | なし          | なし   | なし          | なし   | なし          | なし   |
| 備考               |            |      |             |      |             |      | 赤潮が発生していた。  |      |

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

## ●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

| 主な出現種等          | St.35                                    | St.25                                   | St.22                                    | St.10                                 |
|-----------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------|
| 魚類              | ハタテヌメリ(r)                                | カタクチイワシ(+)                              | アカエイ(r)<br>ハタテヌメリ(r)                     | ハタテヌメリ(+)<br>アカエイ(r)<br>クロダイ(r)       |
| 魚類以外<br>(目立った種) | オウギゴカイ(m)<br>ケブカエンコウガニ(c)<br>ハナギンチャク科(+) | シノブハネエラスピオ(c)<br>オウギゴカイ(+)<br>エビジャコ属(+) | シノブハネエラスピオ(m)<br>オウギゴカイ(c)<br>ホンビノスガイ(+) | ホンビノスガイ(m)<br>クシノハクモヒトデ(+)<br>サルボウ(+) |
| 備考              | 上記の他、シャコ、フタホシシガニ、テナガゴブシ等が確認された。          | 上記の他、サルボウ、ホンビノスガイ、シャコ等が確認された。           | 上記の他、シャコ、エビジャコ属、クシノハクモヒトデ等が確認された。        | 上記の他、コノシロ、エビジャコ属、サメハダヘイケガニ等が確認された。    |

注) 表中の( )内の記号はだまかな個体数を表す。

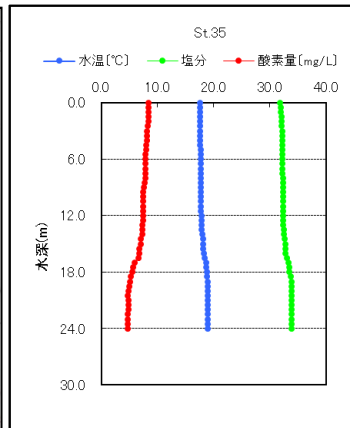
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種

※写真のスケール 1 目盛:1mm



全長 14 cmほどになる。春や夏には湾奥部に分布するが、夏には湾中央のやや深い場所に分布する。内湾の砂泥底に生息する代表種。産卵期は2～11月。



体長 10cm 程になる。砂泥底に生息するウミウシの仲間。体は楕円形で扁平である。周縁の裏側（腹側）に、体側に沿って並ぶ特徴的な鰓板がある。ウミエラなどの刺胞動物を食べる。

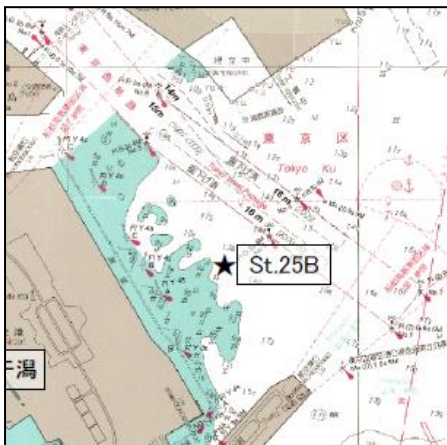


刺胞動物で、水中では鮮やかな触手を広げ美しい。ハナギンチャクの仲間は砂底に棲管を作り、刺激を受けると素早く潜って身を隠す。

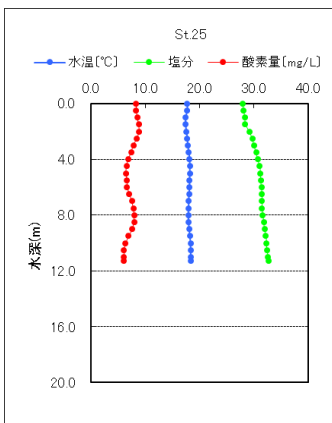


調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況

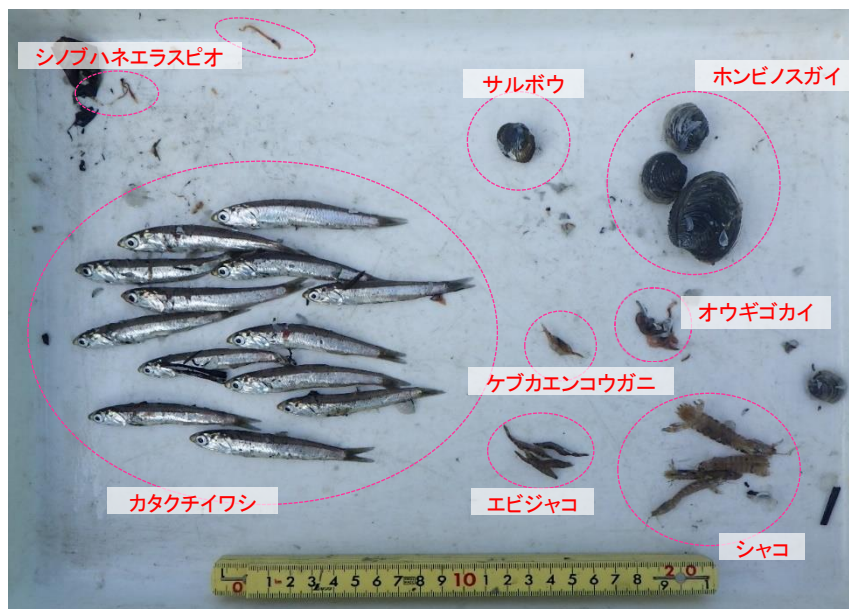


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



全長 14cm になる。東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種であり、大きな群れをなして生活する。網の上げ下ろし時に入網したと考えられる。



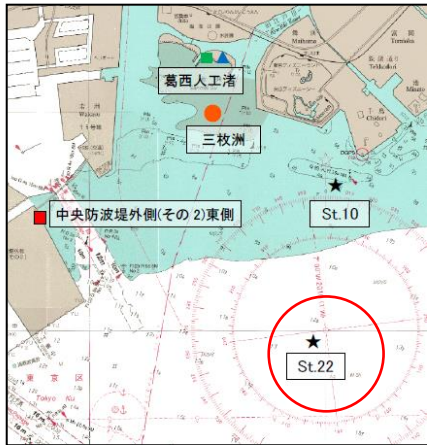
体長 15cm 程になる。内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。肉食性で、魚類、甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。



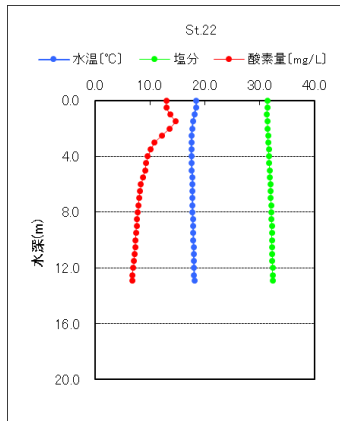
体長 20cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底～砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通にみられる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類などを食べる。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

イッカクモガニ



甲幅 2cm 程になる。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。貧酸素に比較的強く通年で繁殖する。

フタホシシガニ



日本には、仙台湾以南に分布する。深さ 20~400m の砂地の海底にすむ甲幅 3.5cm 程の小型のワタリガニの仲間(ガザミ科)。甲のやや後ろにある二つの斑紋が目立つ。

ケブカエンコウガニ

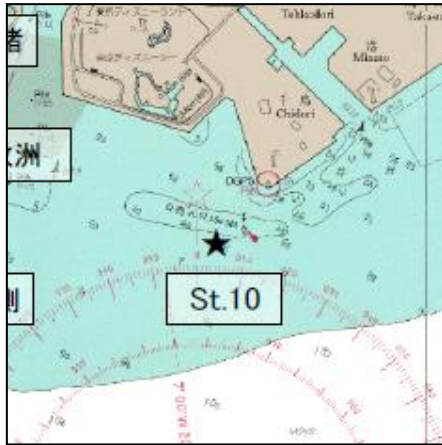


甲幅 3cm 程になる。水深 10~100m の砂泥底に生息する。東京湾では 2003 年頃から増加。イッカクモガニとならんで、マアナゴなどの胃内容物として見つかっており、これら魚類の重要な餌となっている。

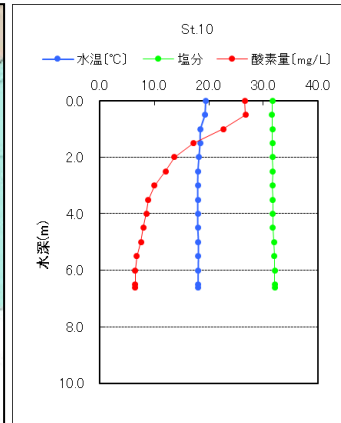


調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



東京湾全域から出現記録がある。体色は銀白色であるが、タイ科の中では黒っぽい。雑食性で小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類などを食べる。雄性先熟(オスとして性成熟した後にメスに性転換する)である。



東京湾を代表する魚の一つで、内湾や河口域に生息する。主に小型プランクトンを捕食する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でもみられる。網の上げ下ろし時に入網したと考えられる。



北米原産の外来種で、殻長10cmを超える大型種。殻は白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。東京湾の湾奥の泥底やカキ礁周辺では多くみられる。